

国語

問一

④	①
飛躍	せっちゅう
⑤	②
うたが	称
⑥	③
冷酷	掘

問二

a
エ
b
ウ

問三

機械文明

問四

ア

問五

III	I
内部	外部
IV	II
外部	内部

問六

直前
のであった

直後
今世紀後半

問七

機械的
に表現したものは無関係に、個人的美意識と芸術
的表現したものは無関係にあるといふこと。

問八

建築体一個につき、環境と関係する立場にあり、その
対する機能と環境との関係が一部としてあり、その
帰結として、環境革命に一部としてあり、その
の帰結として、環境革命に一部としてあり、その
れらという環境革命に一部としてあり、その
に於いて、環境革命に一部としてあり、その

二
問一

	a	b	c	d	e
活用形	連体形	連体形	終止形	連用形	連体形
文法的意味	過去	自発	打消意志	完了(存続)	推量

問二

f	g	h	i	j
キ	オ	エ	ウ	エ

問三

①	②	③	④	⑤
物足りなくて	おっとりとしていたならば	少しでも意にそわなことがないようにしたい	気だても悪いところはありませんでしたが	むやみに

問四

夫婦仲を終わらせるつもりならば、根柢のない嫉妬をすればよい。
末長く夫婦として連添うならば、つらいことに堪えて嫉妬をするのはやめるべきだ。

問五

左馬頭が出世して人前になるまで辛抱強く待たせよ

問六

左馬頭の浮気がいつ直るのかとあてにならない期待をしながら年月を重ねることがつらいから。

問七

離縁する
出家する

国語

三
問一

古代の人は、その人の才能が現在の人と比べて
大変優れているというわけではない。

問二

A あへ(え)て
B ゆゑ(え)ん
C ああ

問三

と	に	成	古
。	發	し	代
	揮	、	の
	し	万	人
	た	全	は
	の	の	長
	で	準	い
	、	備	時
	現	を	間
	在	整	を
	の	え	か
	人	て	け
	よ	初	て
	り	め	自
	優	て	己
	れ	能	の
	こ	力	内
	い	を	面
	た	を	を
	こ	世	間
		を	養

問四

最初 吾
今 雖
最後 推
え 矢

問五

亦 不 可 謂 不 蚤 也

問六

慎	ね	若
重	、	く
に	そ	し
世	の	て
に	成	科
示	果	挙
す	を	に
こ	洗	合
と	練	格
。	さ	し
	せ	た
	た	が
	上	、
	で	さ
	、	ら
	深	に
	い	学
	学	問
	識	を
	を	重